

インフォメーション



№. 36

1980年 8 月

目 次

	頁
1. 第13回総会報告	1
2. 第23回運営委員会報告	2
3. DGD編集委員会報告	2
4. J. C. Dan...記念号の特別頒布について	3
5. 第13回大会関係記事	3
1) 大会を終了して.....広島大学 菅野 義 信.....	3
2) 大会に参加して.....東中川 徹.....	4
3) 座長を悩せよう.....塩川光一郎.....	6
6. 第7期会長・運営委員選挙について	7
7. The Jean and Katsuma Dan Fellowship Progran (生物科学・ 団・国際交流基金の設立計画について.....酒井 彦 一.....	8
8. 昭和55年度山田科学振興財団への推薦について	10
9. 山田科学振興財団 昭和56年度用招へい派遣集会の援助 申請について	11
10. 事務局より	12
11. 日本発生生物学会会則	12
12. 会員異動	15

日本発生生物学会

東京都町田市南大谷11号(〒194)

三菱化成生命科学研究所発生生物学研究室内

事務局よりのおねがい

1. 会費納入のお願い

当学会員の会費は年度始めに納入することになっています。会費の納入は日本学会事務センターより配布される振込通知書を御利用になり、会費の納入に御協力下さい。

学会費を3年間滞納されますと自動的に退会の手続きをとらせて頂きます。尚、その際滞納分の会費を御支払い頂くか送付済のDGDを返して頂きます。やむなく退会を希望される方はその旨学会事務局もしくは日本学会事務センターに届出て下さい。

2. 現在DGDの基金を募集中です(サーキュラーNo.22 参照)

1 口 1,000円(1人何口でも可)

払込先 郵便振替 東京0-81651 日本発生物学会
(振替用紙の裏面に「DGD基金」と記入して下さい)

3. サークュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと(たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など)、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。

なお、原稿は事務局庶務幹事あて、お送り下されば、幸いです。

賛助会員

合資会社 木下理化器製作所

〒460 名古屋市中区千代田5-22-11

賛助会員

株式会社 商新名古屋営業所

〒462 名古屋市北区憧旛町1-6 志賀コーポ101

賛助会員

ヤマト科学株式会社名古屋営業所

〒456 名古屋市熱田区波寄町48

1. 第 13 回 総 会 報 告

総会は6月22日午前11時、広島大学歯学部で行なわれ、議長は野口基子氏（静岡大・理・生物）、出席者約35名であった。主な審議報告は次の通りである。

1. 昭和54年度学会活動報告が、事務局より田中省二庶務幹事により、またDGD編集局より岡田節人主幹によって行なわれた。

2. 昭和54年度決算報告（別紙参照）が山崎君江会計幹事によって行なわれた。木下清一郎、安田峯生両会計監査員から帳簿等を監査した結果、適正であったことが報告され、承認された。

3. 昭和55年度予算案（別紙参照）について山崎君江会計幹事より説明され、承認された。

4. 第7期会長運営委員選挙（当サーキュラ別項参照）は、今秋、第7期選挙管理委員会（米田満樹氏委員長、京大・理・動）、竹内郁夫氏（京大・理・植）、竹市雅俊氏（京大・生物物理）によって行なわれることが報告された。

5. 昭和56年度事業計画について岡田会長より説明された。

6. 第14回大会は京都で開催される旨、会長より報告され、準備委員長の藤田哲也氏（京府医大・病理）の挨拶があった。

昭和54年度決算報告

(54.12.31)

収	入	支	出
前年度繰越	3,309,589円	編集局経費	2,428,030円
学 会 費	3,289,500	印刷費 (Vol. 21. 1~6)	6,217,430
DGD売上げ	3,545,500		
広 告 代	180,000	事務局経費	985,424
賛 助 会 費	40,000	第12回講演要旨集	716,800
単行本売上げ	581,280	サーキュラー印刷費	154,040
DGD基金	8,300	運営委員会費用	304,340
文部省助成金	2,420,000	郵便振替手数料	38,190
第12回大会より寄付	200,000	銀行振込手数料	4,900
記 念 論 文	140,000	学会事務局センター契約金	100,000
利 息	59,717	第13回大会援助金	200,000
		次年度へ繰越	2,624,732
計	13,773,886		13,773,886

昭和55年度予算案

(55. 6. 19)

収	入	支	出
前年度繰越	2,624,732円	編集局経費	2,650,000円
学 会 費	3,414,000	印刷費 (Vol. 22. 1~6)	9,000,000
DGD売上げ	3,552,000	事務局経費	400,000
広 告 代	130,000	第13回講演要旨集	750,000
賛 助 会 費	290,000	サーキュラー印刷費	150,000
単行本売上げ	1,188,720	運営委員会費用	300,000
DGD基金	510,000	第14回大会援助金	200,000
文部省助成金	3,630,000	単行本諸経費	888,600

記念論文	2,350,000	学会センター(名簿作成)	252,260
利 息	20,000	〃 (諸経費)	511,600
		〃 (DGD発送費)	600,000
		郵便振込手数料	5,000
		銀行 〃	5,000
		選挙のための費用	250,000
		予 備 費	100,000
		会 長 旅 費	50,000
		DGD充実のための基金	1,536,992
計	17,709,452		17,709,452

2. 第23回運営委員会報告

第23回運営委員会が6月19日(木)、広島大学歯学部大会議室で開催された。

出席者：岡田会長、天野、大西、片桐、加藤、金谷、黒田、塩川、樋度、毛利、米田(以上運営委員)、菅野(第13回大会長)、安田(会計監査員)、相山(学術会議評議委員)、山崎、田中(事務局)。

報告、審議事項は総会の項と重複するので割愛する。

3. DGD編集委員会報告

出席者：岡田(主幹)、岡田益吉、藤田、金谷、加藤、団、天野(幹事)、毛利(J.C. Dan 記念号編集代表)

広島大学歯学部会議室にて 6月19日 午後4時から6時まで開催。

1) 1980年度の現在までの編集状況、編集局の会計につき岡田主幹より報告。また、毛利氏から、J.C. Dan記念号の編集につき報告。記念号は論文41篇を掲載、すでに校正の段階にある。引続き、Vol 22, №4の原稿は編集を完了して印刷所に回付した。なお、1980年度において6月18日までに投稿された論文は50篇である。

2) 文部省の出版補助金が飛躍的に増加したので、編集委員会から学会へ会費値上げの必要を申し出る必要はなくなった旨、主幹から報告。この機会に、ますます雑誌の充実をはかる必要があるので委員各位の協力を主幹から依頼した。

3) J.C. Dan記念号に適切なタイトルを付する件、藤田委員から提案があり、“Problems in Early Development” とする。

4) 拡大しつつあるDGDの編集運営のため、新しい体制を確立する必要があることを主幹から提言。了承を得たので、次回にこの件につき具体的に検討する。例えば、投稿論文を専門別にして、2人以上のexecutive editors を依頼する方法。そのような方法に必要な予算措置などを次回に論議する。

Development, Growth & Differentiation

Editor-in-chief

代表者 岡 田 節 人

4. J. C. Dan記念号の特別頒布について

J. C. Dan記念号(“Problems in Early Development”) (D. G. D. Vol 22, No 3 号) が刊行されました。この号に限り、会員以外の方々にも頒布することが、編集委員会及び運営委員会で決まりました。

価格は 10,000 円です。購入を御希望の方は、学会事務局センターの方へお申し込み下さい。

宛先は 〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

日本学会事務センター 鈴木良彦

Tel 03 (815) 1903 です。

5. 第13回大会関係記事

1) 大会を終了して……広島大学 菅野義信

日本発生物学会という着々と生長し、内容密度の高い学会の第13回年大会を広島に開催することができたのは有難いことでした。折しも故 Jean Clark Dan 先生の追悼の記念号DGDの発行を企画した時期にもあたり、私にとっては忘れられぬ大会となりました。この素晴らしい機会を与えて下さった方々に先ず厚く御礼を申しあげたいと存じます。

大会を終了しての感想をインフォメーションサーキュラにのせるよう事務局から要請があったわけですが、本来は私が参加者の方々の御批判を仰ぐ立場であり、参加者の方々からこそ感想をいただきたい気持です。

私としては云い訳と今後の学会の大会運営に関し気がついたことをいくつか述べさせていただき、会を世話なさる方々、又参加される方々の何等かの御参考になればと思います。こんなことで感想に代えさせていただきたいと思います。

先ず云い訳ですが演題募集のサーキュラーが予定より約2週間ほど遅れてしまいました。そのため演題の受付を正確なサーキュラーに記載した日よりやはり延期せざるを得なくなり、4月末日を締切日といたしました。これは大方の御理解を得られたことと存じます。

5月の連休に入る前、すでに演題の発表順序はきめ、連休明けと同時に印刷屋の方へ原稿依頼しました。参院選挙が近づくにつれ、すべてが遅れ、その上衆院の選挙が重なり、何とも遅れてきました。私は出題された方が3日間のうち何処で講演するか、日程ぐらいいは別にお配りすることも考え、印刷屋にも相談しましたが、6月14日(土)までには手に入るということで労を惜んでしまいました。これは反省で、せめてプログラムぐらいコピーしてお配りすれば良かったと今も残念です。

御存知のように要旨集の印刷は広島で致しますが、発送は東京の学会事務局センターです。東京より遠方ほど要旨集の入手が遅れたことはまことに申し訳ない次第です。

こういう状況の中でいろいろ問い合わせをいただきました。やはり御自分の発表は何時かということと、果して申込んだ演題が大会準備委員会に届いているかということです。今回の大会の演

題の受付方法は従来どおりさせていただいたつもりですが、できれば演題を受けとり、プログラムを決めた段階で御返事を差上げる方が良かったなと思いました。

今回は又外国在住の会員の方の出題もあり私としては大変嬉しかったのですが、やはり期日には大分心配されたのではないかと気にしております。この辺が難しい所で、あまり早い演題締切では、未完成な予定演題の申込の可能性もあり、今回について云えば2月上旬のサーキュラーでの演題募集、3月下旬での締切、4月早々にプログラム完成、5月中下旬要旨集の発送ということであれば良かったなと反省しております。

今後の提案として返信用印刷物を2種用意して、一つは演題到着の返信、もう一つは講演発表日の通知をあらかじめ差上げて1週間前程度に要旨集がお手許に届くというのが理想ではないかと思料しております。

以上のような広島大会での数々の不ゆきとときにも拘らず、昨年を上回る懇親会への御参加をいただき経済的には大変助かりました。大学でやらせていただきましたので、会場費の節減から実は懇親会は会費に参加費の一部を上のせさせていただきます。大会自体にも予想以上の御参加をいただきこれこそ厚く会員各位に御礼申しあげます。

シンポジウムも準備委員会で自由にやってよろしいことの会長のお言葉に甘え、毛色の変った臨床を含めた奇形をやらせていただき、ワークショップはお休みいたしました。心よくシンポジストをお引受けいただいた方々大変有難うございました。これも厚く御礼申しあげます。それやこれやまことに不ゆきとときに加え、勝手にやらさせていただきましたが、会員各位の御理解を得たことを深く感謝しております。シンポジウムに奇形を選んだ理由に実はお恥しい次第ですが少し個人的なことがございました。御理解いただけることを祈っております。

どうも皆様有難うございました。広島の誇る宮島の美しい風景と共に、学問的印象がいつまでも残っていただければ幸と存じます。

2) 大会に参加して……東中川 徹(産業医大・分子生物)

大会が終り帰りの新幹線の座席についた時、まず感じたことは、つかれた学会だったということである。あるいは考えせられた学会といってもよい。2, 3の友人と同席していたが、しばらくは口をきく気にもならない。頭の中を大会3日間を通じて聞いたこと、考えたことがまとまりなく右往左往する。筆者がこのほかに参加する生化学会や分子生物学会の印象とまるで異なる。この傾向は何も今回に限ったものでなく、筆者が本大会に定期的に参加するようになった1976年以来、多かれ少なかれ同様の感じをもってきた。考えてみると、生化学会や分子生物学会が、生物あるいは生命現象の一側面をとらえて、いわば人間の立場から分析しようとするのに対して、本学会はとらえている側面はその一部あるいは一段階であっても、生物全体(あるいは胚全体)をいつも意識しつつ、生物の立場に立ってものを考える傾向がある。生物学のルーツが、生物の生態観察、「やれ打つなハエが手をする足をやる」というところにあることを思えば至極当然のことなのだが。筆者の属する他の学会大会と比べて、教室やグループの長が一般講演の中

で発表することが目立って多い(本大会もそうであった)のを見ても、このことがうら打ちされているように思う。それに、今年は昨年の北海道大会に参加できなかったため、満を持しての気味なきにしもあらずで、朝の一番の講演から、時々の匪魔とたたかいつつ、ずっと講演の聞きずっぱり。それに加えて、ひとつひとつの演題が提起する問題に、従来の分子生理学的手技を適用することは出来ぬものと、自分なりに作りあげたいいくつかの規準に照らしつつ、思案しながら聞くのでそれは実に忙しい。帰りの車中では、したがってそのような想念が雑居して頭の中につまっている。つかれたと感じたのも無理からぬ話である。

それにつけても、大会が、筆者が三島大会の総会で提案したように Gordon Research Conferences のような meeting であればよいとつくづく思う。そうすれば本大会で感じたこと、疑問やアイデアを、大会後の雑事に邪魔されないうちに、いろいろな人とディスカッションすることができるであろう。たとえば、八王子セミナーハウスなどを用いて泊まり込みで、夜もセッションを持ち(そうすれば演題数をへらすことはないだろう)、そのかわり昼間自由に話す時間を設ける。いまの大会でも、ロビーや談話室で話すことが出来るが、それは講演を聞くのを自分および相手が犠牲にすることが必要であり、話したい人をつかまえるのがなかなか難しい。昔の分子生理学シンポジウムはこの傾向をもっていた。いまでは、一泊する科研費班会議や、山の家や臨海実験所での比較的小規模のワークショップなどにこの良さが残っている。本学会ぐらいの規模であれば、物理的には可能であろう。これを機会に学会の諸姉諸兄にあらためて御一考をお願いする次第である。

もっとも感銘をうけたのは、何といっても Prof. Nicole Le Douarin の特別講演であった。日本のウヅラとトリの核型の違いを利用して、神経冠細胞を標識し、その移動と分化を追う見事な系の解説からはじまって、最近の神経冠細胞の試験管内培養を用いて分化に関与する因子の探索に至るまで、全部を理解できたとは思わないが、その系の独得さと、今後の有望さは理解したように思う。講演後、廊下でそのような核型のちがいを利用できる他の生物はないかと質したところ、マウスにそのようなものがあると答えられたが、先日、Nature 次いで Science に、細胞DNAあるいは Cloned DNA を Spleen 細胞に導入し、その細胞を Syngenetic マウスに注入した後、endogenous spleen 細胞と区別するのに、染色体マーカーを用いている論文が報告されたが、このようなことを指しているのであろうか。

細胞分裂(またはDNA複製)の回数と分化形質の発現との関係の問題は古くて新しい問題のひとつであろう。期せずしてふたつの演題がこの問題にひとつの見通しを与えた。山名ら(九大)のツメガエル胚の細胞分裂と rRNA 遺伝子の発現に関する仕事と、佐藤(京大)および池上(広島大)によるホヤ胚の AChE の出現とDNA複製回数に関する報告である。いずれも、今後これらの過程で、DNAをはじめとする転写装置の変化が追究されるであろうが、それを従来の、one cell chemistry をこととする分子生物学的手技で攻めるには、十分な細胞数がそれぞれの細系統において得られることが肝要と思われるが、この点どうであろうか。

岡田ら（京大）の「決定」状態のアッセイの試みに関する報告は、要旨集をみて最も期待していた演題だけに、十分質問およびディスカッションできなかったのは残念であった。筆者の質問に答えられたように、分化転換の過程での決定転換に関する質問を発するのによい系であろうと思われる。それにしても、不勉強で恐縮だが、この系あるいは胚発生系で、決定の定義をどうすればよいのかよくわからなくなってきた。0から1への変化と1から100への変化は本質的に異なるわけで、0から1への変化を決定と定義するなら、 $0 \times 100 = 0$ 、しかし $1 \times 100 = 100$ となり、検出感度を100以下にすれば決定の段階をとらえられ、岡田らのいう通りであろう。この過程での、転写装置の変化に興味もたれるが、かれらのいう決定の時期には、培養中の細胞のごく一部しか決定されていない様で、そのままでは分子生物学的手技の適用は難かしそうだ。

1976年、大阪大会での筆者の学会メモに、分子レベルの解析による演題が少なくつまらないとあるが、今回の大会を終えてそのような印象を全くもたなかったことに気がついた。

3) 座長を悩ませよう……塩川光一郎（九大・理・生）

今年は広島大学で第13回発生生物学会大会があり、いろいろな工夫をこらした企画が持たれた。それに先だって、大会準備委員長から、座長の依頼があった。大会の役に立つことであるから、無論お引き受けした。座長役をやってみて、少し感じたことがあるので書いてみた。

以前にはじめて座長を依頼された時もそうであったが、今回も特に考えることはなにもなかったのである。とにかく、無事に“あの1時間”を通過できれば、それでよいと思っていた。そのために必要なことは、「ただ今の御講演については御質問、御討論をお願いします」と、「どうもありがとうございました。それでは次に移ります」という、たぶん、二つか三つの決まり文句を覚えておいて、あとは進行係の合図に気を配ることだけであった。

私が「座長の役は大切だな」と急に今回感じたきっかけは、エレベーターの中での、さる高名な先生方の会話である。私は、歯学部（会場）のエレベーターに乗って下へ降りようとしていた。その時数人の“偉い”先生方が乗ってこられた。いずれも教授とか部長とかいう立場の方々である。そして次のような会話が合った。

「今年は座長はすっかり若返りましたな」

「いや、あれは実にいいですな。ははは……」

「ほんと、ほんと」

……談笑……

実際、考えてみると、今年はかなり若返っているように思えた。大会準備委員長の方針で、会場入口に座長の一覧表が刷って置いてあって、各会場には「座長〇〇〇〇」という、どちらかというといかめしい札は出してなかった。各人がそれぞれ自由に、持ち味を生かして、演題を処理できるようにはなっていたのである。私は、急に、それぞれの“若返った”座長がどうやって会を運営しているかが、気になってきた。そこで、気をつけて聞いていると、座長の発するいろいろなことばのなかで、特に次のような発言が気になった。

「時間がありませんから、次に進みます」

「30秒だけ時間があります。お一人だけ質問して下さい」

みたところ、座長たちには、おおむね質疑応答の時間があまり残されていないのである。

上の二つの発言のうち、特に二番目のものについていえば、私が以前大学院生の時に初めて聞いた時には、ひじょうに緊張感あふれる、座長の英断であると思えたものである。ところが今回は違った。エレベーター中での会話が作用したのである。起って来た感情は「せっかくの発表なのに、たった一人だけの発言でこと足れりとするのは、まことによくない考えの座長だ」である。しかし、考えてみると、これは必ずしも座長にのみ非があるのではなかろう。討論の素材を提供するのに熱心なあまり、持ち時間を超過し、討論時間到来の合図が来ても発表をやめなかった演者も、相当によくないのである。

自分の発表のまずさを棚に上げて、他人のことをとやかく言えた義理では決してないのであるが、学会ではなるべくわかり易く、コンパクトに発表することにした。そうすると、質問時間が充分に残され、座長が論議をどのように展開すべきかについて、おおいに頭を悩まさねばならぬようになると思う。そこのところで、若返った（といわれた）座長の技倆も問われるはずである。聴衆としても、会場でのやりとりが“面白い”から、より多く集まり考え、発言するようになるだろう。まったく当りまえのことであるが、このようにして皆で学会を魅力あるものにしてゆきたいものである。

6. 第7期会長・運営委員選挙について

会長および運営委員選挙は施行細則（当サーキュラー掲載、学会会則の項を参照）に従って実施いたします。下記の諸点に御留意の上、郵便による投票をお願い致します。

- 1) 選挙に必要なものが当サーキュラーに同封してありますので御確認下さい。

イ) 会員名簿（1980年7月）

ロ) 投票用紙：会長、運営委員併用 1枚（ピンク色用紙）

ハ) 郵送用封筒、宛名入り 1枚

- 2) 被選挙人は名簿に掲載されている全通常会員です。ただし、会則第5条第2項により、次の会員の方々には運営委員の被選挙権がありません。

江上信雄、大西英爾、加藤淑裕、金谷晴夫、黒田行昭、米田満樹（敬称略）

- 3) 投票用紙郵送用封筒の表には、必ず選挙人の住所氏名を御記入下さい。

- 4) 選挙の日程は下記の通りです。

第1次選挙（会長、運営委員）

投票日 締切り 10月31日（金）必着

開票（公開）11月1日（土）午前10時から京大理学部・動植物会議室（300号室）

第2次選挙（会長・必要の場合）

投票日 締切り 11月27日(土) 必着

開 票(公開) 12月1日(月) 午前10時から京大・理学部・動植物会議室(300号室)

第7期会長・運営委員選挙管理委員会

7. The Jean and Katsuma Dan Fellowship Program

(生物科学・圃・国際交流基金)の設立計画について

團勝磨・ジーン両先生は、長年にわたって国際研究交流に御尽力下され、国際的に発生生物学や細胞生物学の分野に多くの影響を与えられてきたことは衆知のことです。両先生の御努力によってアメリカでは Wood Hole や Friday Harbor その他の研究機関、日本では各地の臨海実験所、各種研究機関等で多くの国際的学術交流と協同研究が推進され、この30年間に日本におけるこの学問分野は著しく進展しました。故に團ジーン先生が、日本の社会環境の中で自由に、のびやかに、又精力的に活躍され、発生生物学会、動物学会に有形無形に貢献され、又、若手研究者の研究意識に潜在的な深い影響を与えられたことは、いまだ記憶に新たなものがあります。

このような両先生の長年に亘る業績と御努力を引継ぎ、更に国際研究交流を推し進めるために現在、生物科学・圃・国際交流基金の設立が計画されています。この基金は、主として日米間における生物科学の学術的交流を推進するために必要な援助を行い、日米相互の協同研究、相互理解を通して生物科学の発展に寄与することを目的とし、その目的を達成するために、毎年日米間で各複数名の研究者、特に若手研究者を一定期間相互に受入れ、アメリカでは Woods Hole 臨海実験所その他の研究機関、日本では各地臨海実験所その他の研究機関で研究に従事させるための援助を行うものです。

昨年、Woods Hole MBL 所長 Paul Gross 教授と井上教授の発案でこの設立のための日米両委員会が発足しました。日本委員会(設立準備委員会)では、東京、名古屋、京都の各地に夫々ワーキンググループを設け、加藤淑裕、平本幸男、毛利秀雄、能村堆子、安増郁夫(東京)、金谷晴夫、佐藤英美(名古屋)、岡田節人、米田満樹(京都)の各氏が具体的な作業に当たっています。ワーキンググループ以外の委員の方々からは、必要に応じて随時御意見をうかがい、ワーキンググループで進める作業の指針とします。

昨年、井上教授が来日された折、基礎生物学研究所で第2回実行委員会がもたれ、この日米共同事業計画の概要と、日本国内での募金対象の範囲と実状が検討されました。又、この6月に第3回実行委員会(東京)が開かれ、この事業を推めるための財団法人設立の可能性が議論され、学術振興会や文部省への働きかけを行ってきましたが、幾つかの難問があります。又、現在、特定社団法人の一事業として援助を要請する可能性も並行して検討されています。一方、アメリカ側では、今、個人的な寄付が Woods Hole MBL に集められつつあります。

この度、発生生物学会会員の皆様方に募金をお願い致しますのは、このような状況下で出来るところから実質的にこの事業を進めてゆこうという意図からに外なりません。例へば、短期間の

研究協力であれば、関連学会員や友人からの寄付だけで、その実績を作ることが十分可能と思われます。又、学振に日米共同研究の申請を積極的に行い、実績をまず積み重ねることが重要であると思われます。その上で、広く経済界の援助と協力を得て、この事業を推めてゆく所存です。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

生物科学・團・国際交流基金 設立準備日本委員会 酒井彦一

連絡先 〒 113 文京区本郷7-3-1

東京大学理学部生物化学教室

TEL (03) 812-2111 内 4396~8

郵便振込（一口 5,000円）は

（口座番号）東京5 40494

（加入者名）生物科学・團・国際交流基金 設立準備会

生物科学・團・国際交流基金設立準備委員会

名誉会長 團 勝 磨

アメリカ委員会

日本委員会

Paul Gross, Chairman

○酒 井 彦 一

Shinya Inoue, Coordinator

江 橋 節 郎

Biorn Afzelius

江 上 信 雄

John N. Arnold

遠 藤 善 之

H. Stanley Bennett

○平 本 幸 雄

Jone Collier

神 谷 宣 郎

Jack R. Collier

○金 谷 晴 夫

Laura H. Colwin

○加 藤 淑 裕

Arthur L. Colwin

勝 木 保 次

Helen Costello

○能 村 堆 子

James D. Ebert

○毛 利 秀 雄

Teru Hayashi

中 埜 栄 三

Herman Kalckar

○岡 田 節 人

Daniel Mazia

岡 田 善 雄

Charles B. Metz

○岡 崎 嘉 代

Alberto Monroy

○佐 藤 英 美

Ruth Sager

梶 山 正 雄

Evelyn Spiegel

寺 山 宏

Melvin Spiegel

富 山 一 郎

Suzan Steinbach

○安 増 郁 夫

H. Burr Steinbach

吉 田 正 夫

Helen Whitely

○米 田 満 樹

Arthur Whitely

R. Yanagimachi

○印：実行委員

Tsuneo Yamada

8. 昭和55年度山田科学振興財団への推薦について

今年度も日本発生生物学会は、山田科学振興財団より、研究援助候補推薦の依頼を受けました。学会内の推薦手続は次の通りです。

- 1) 申請：55年10月10日までに書類を事務局宛郵送。
- 2) 学会内審査：55年10月中旬
- 3) 財団へ推薦：55年10月下旬

申請に必要な用紙は事務局にあります。御入用の方はお送り致します。推薦要領は次の通りです。

昭和55年度

山田科学振興財団研究援助候補推薦要綱

1. 援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループに対し援助します。

2. 援助の金額及び期間

イ. 金 額 総額 1億2千万円以内

(A) 1千万円前後2千万円以内の援助 (B) 3百万円前後5百万円以内の援助
併せて10数件

ロ. 期 間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は、毎年提出された推薦書に基づき選考します。

3. 推薦方法

イ. 推 薦 者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに(A),(B)おのおの1~2件

ハ. 推薦手続 推薦者は、所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し、関連主要研究報告のリストを添え、5部ご送付願います。なお関連主要研究報告のうちから3種をえらび、その別刷もしくは写しを各報文ごとに4部ずつご送付願います。

4. 記載上の注意

イ. 黒インクで明瞭に記入して下さい。

ロ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。

ハ. 申請書第1項欄外の脚注には記入しないで下さい。

ニ. 代表研究者は所属する大学(部)・研究機関等の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

5. 推薦締切期日 本財団へ推薦書が到着する締切期日は昭和55年10月27日(月)です。

6. 選考方法 選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

7. 選考結果の通知 昭和56年2月末迄に推薦者及び代表研究者等にあてて通知します。

8. 援助金の贈呈 昭和56年4月以降

9. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号 ロート製薬株式会社内

電話 大阪(06)758局1231 ロート製薬株式会社呼出

付

イ. 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。

ロ. 援助金から支出することのできない経費は、文部省科学研究費の場合に準じます。

ハ. 援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。

ニ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団, Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類いにあつてはその別刷2部、また著書の類にあつてはその1部をご寄贈願います。

ホ. ご提出いただきました推薦書及び添付資料は、お返しいたしません。

9. 山田科学振興財団、昭和56年度用招へい派遣集会の援助申請について

山田科学振興財団に申請出来る援助についてお知らせ致します。必要書類は直接財団宛(前項参照)に請求して下さい。

援 助 名	募 集 開 始	締 切 日
長 期 間 招 へ い (56年4月~57年3月分)	55 年 4 月 1 日	55 年 11 月 30 日
短 期 間 招 へ い (56年4月~57年3月分)	55 年 4 月 1 日	55 年 11 月 30 日
長 期 間 派 遣 (56年4月~57年3月分)	55 年 4 月 1 日	55 年 11 月 30 日
短 期 間 派 遣 (56年4月~57年3月分)	出発月の4カ月前の15日が締切日 (例: 56年4月出発の場合55年12月15日が締切日)	
学 術 交 流 集 会 (56年4月~57年3月分)	55 年 4 月 1 日	55 年 9 月 30 日

10. 事務局より

今年末事務局は移転する予定です。次期幹事長および幹事は次期（第7期）会長によって委嘱されますが、事務局としては、東大、動物教室の水野丈夫氏を考えております。

幹事長 加藤 淑 裕

11. 日本発生生物学会会則

会則は本則・付則・選挙細則よりなる。

本 則

第 1 条 本会は日本発生生物学会（Japanese Society of Developmental Biologists：略称は JSDB）という。

第 2 条 本会は発生生物学の進歩と普及をはかることを目的とする。

第 3 条 本会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 欧文誌の刊行
2. 大会の開催
3. その他本会の目的達成に必要な事業

第 4 条 本会の会員は通常会員、賛助会員の2通りとする。

1. 通常会員は本会の趣旨に賛同し、所定の手続を経て、通常会費を納めたもので、欧文誌などの刊行物の配布を受ける。また、大会での研究発表の申し込みをすることができ、総会の議事に参加することができる。
2. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し、本会の承認をうけ、所定の賛助会費を納めた個人または法人で、欧文誌などの刊行物の配布をうける。

第 5 条 本会には次の役員をおく。

会長1名・運営委員若干名・幹事若干名（うち幹事長1名）・欧文誌編集委員若干名（うち編集主幹1名）・会計監査2名

1. 会長は本会を代表し、会務を統べる。任期は2年とし、連続3期つとめることはできない。
2. 会長および運営委員は運営委員会を構成し、本会の要務を審議し会の運営にあたる。運営委員会は会長・3名以上の運営委員・30名以上の通常会員のいずれかの要請により開かれる。運営委員の任期は2年とし連続3期をつとめることはできない。会長が不測の事故などによりその任務を遂行できなくなった時は、運営委員会の議を経て会長代行をおくことができる。
3. 幹事長および幹事は会長を助けて庶務・会計などの日常の会務を処理する。
4. 会計監査は前年度の決算を監査する。
5. 欧文誌の編集主幹および編集委員は編集委員会を構成し、編集に関しての一切の責任を負う。編集主幹および編集委員の任期は3年とする。

第 6 条 本会の会計年度は1月1日に始まり同年の12月31日に終る。

第 7 条 本会は原則として年 1 回定時総会を開き、会務を協議し、議決する。なお会長が必要と認めたときには、臨時総会を開くことができる。

第 8 条 本会は定時総会のとき大会を開き研究発表などを行う。大会には大会委員長 1 名と大会委員若干名をおく。大会委員長は会長が委嘱し、大会委員は大会委員長が委嘱する。大会の運営は大会委員長の責任において行なう。

第 9 条 通常会員が会費を 1 年以上滞納したときには除名することがある。

第 10 条 本会は地方支部をおくことができる。

第 11 条 本会の会則の変更は総会において協議し、出席会員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

付 則

第 1 条 本会の事務所は運営委員会の議をへて会長が委嘱する。

第 2 条 会費は次の通りとする。

1. 通常会員は年額 6,000 円を年度始めに納入する。

2. 賛助会員の賛助費は年額 10,000 円以上とする。

第 3 条 会長および運営委員の選出方法は次の通り定める。

1. 会長および運営委員 (14 名) は、通常会員の投票により選出される。その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる。

2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員 (3 名) が行なう。

第 4 条 幹事長および幹事は会長が委嘱し、運営委員会の承認をうける。

第 5 条 欧文誌の編集主幹は運営委員会が委嘱する。編集委員は 9 名とし、まず運営委員会が 3 名を選び、残り 6 名は編集主幹が指名する。

第 6 条 会計監査は運営委員会の議を経て会長が委嘱する。

第 7 条 本則第 3 条 3 項に定める事業を行なうために、委員会を設けることができる。

委員は会長が委嘱し、うち 1 名を委員長とする。

第 8 条 運営委員会は少なくとも 10 年毎に、広く会員の意見を聞き、本会のあり方に関して根本的な再検討を加えねばならない。

第 9 条 本会則は昭和 47 年 1 月 1 日より施行する。

申し合わせ事項

1. 毎年 1 月 1 日から総会までの会の運営は会長の責任による暫定予算によって執行し、その会計年度の予算とともに総会で承認を受ける。

2. 日本発生物学会発足 10 年目の反省に基づき、会長は、上記の選出方法によって選出された委員以外に 3 名以内の委員を別に委嘱することができる。

脚注 1 : 1971 年 8 月 25 日第 4 回総会にて承認。

脚注 2 : 付則の第 1 条、第 2 条、第 3 条は昭和 49 年 6 月 22 日、第 7 回総会に於て変更した。

脚注3：昭和51年5月28日、第9回総会に於て前文を追加、本則第5条、第11条、付則第3条を変更した。

会長選挙施行細則

第1条 本細則は会則に定められた会長の選出に関する手続である。

第2条 選挙の施行に関する一切の管理は選挙管理委員（委員は委員会を構成し、1名を委員長とする）の責任の下で行なう。

第3条 選挙は通常会員の単記無記名投票によって行なう。

1. 投票用紙は選挙管理委員会所定のものに限り、所定の期日までに到着するよう郵送されなければならない。
2. 投票用紙には被投票者の姓名を明記すること。ただし、同姓同名の被選挙人が2名もしくはそれ以上ある場合は、住所所属機関などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする、ただし、2人もしくはそれ以上記名されたり、なに人を指すか判別不可能な記名があった場合は無効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行う。

第5条 第1次選挙において有効投票の過半数を得たものを当選者とする。過半数を得たものがないばあい得票数の多いもの3名を第2次選挙の候補者とする。ただし、上位3番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が4あるいは、それを越える場合には、これら同数得票者を第2次選挙の被選挙人とし、第3条に従って単記無記名投票とする。

第6条 第2次選挙において最多票を得たものを当選とする。ただし、最多得票数が2名もしくはそれ以上ある場合は管理委員の抽選によって当選者を決定する。

第7条 選挙の結果はただちに会長に報告され、当選者への通知は選挙管理委員長名で行なわれる。

運営委員選挙施行細則

第1条 本細則は、会則に定められた運営委員の選出に関する手続である。

第2条 （会長の場合と同じ —— 省略）

第3条 選挙は通常会員の14名連記無記名投票によって行なわれる。

1. 投票用紙は選挙管理委員会が定めたものに限り所定の期日までに到着するよう郵送されなければならない。
2. 投票は14名連記とし、被投票者の姓名を明記すること、ただし、同姓同名の被選挙人が2人もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第 5 条 当選者は得票数の多いもの14名とする。ただし、得票数で上位14番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が15あるいはそれを超える場合は下位の同数得票数について選挙管理委員の抽選により当選者を決定する。

第 6 条 会長が運営委員より選ばれた場合は次点者をくりあげる。

第 7 条 (会長の場合と同じ — 省略)

12. 会 員 異 動

《新入会員》

① テーマ ② 材料

土 屋 洋 文 京大, 理, 生物物理

①Cell lineage pattern と anatomy の関係

広 瀬 宜 郎 東大, 理, 物理

①中枢神経系発生の遺伝的解析

帯 刀 章 子 帝京大, 薬学

②ショジョウバエ, アフリカツメガエル

①鶏胚表皮分化のメカニズム解明

三 島 昇 川崎医大, 解剖

②鶏胚皮膚

①水晶体蛋白の発生過程における蛋白組成の変化

星 野 道 雄 慈恵医大, 生化

阿 形 清 和 京大, 理, 生物物理

①発生における遺伝子発現機構

②Chick embryo

近 藤 寿 人 京大, 理, 生物物理

①決定と分化の分子機構

②ニワトリ, ウズラ

吉 田 知加子 京大, 理, 生物物理

①細胞間の接着と認識

②培養細胞(チャイニーズハムスターV79細胞)

伏 木 信 次 京府医大, 第2病理

①脊椎動物中枢神経系の初期発生における細胞動態と形態形成

②マウス, ニワトリ, ヒト

赤 坂 甲 治 東大, 理, 動物

①ウニ初期胚における硫酸化多糖体の役割について

②ウニ

浜 野 理一郎 国立刀根山病院

①正常及び筋ジスの筋細胞培養

佐 藤 正 典 東北大, 臨海

①環形動物多毛類の受精機構

②ゴカイ, イトメ, エラコなど

堀 内 健太郎 浜松医大, 化学

①ヒストンのアセチル化

②ウニ, ラット, 子牛

鈴木 通世 名大, 理, 生物

①初期発生における誘導機構

高山 洋一 新潟大, 医, 衛生

②イモリ, *Cynops pyrrhogaster*

福井 由理子 東京女子医大, 生物

①Gene expression Oogonogenesis

②*Mus musculus*

宮本 さち 独協医大, 第2解剖

①発生における形態形成, 遺伝情報発現調節

②鶏胚, シリアンハムスター

杉本 幸隆 京大, 理, 動物

①プラナリアの aging

②ナミウズムシ, *Dugesia japonica*

宇野 賀津子 京大, 理, 動物

①胞表面における運動, 増殖, 分化の調節機構

②培養株細胞, 3T3 py3T3, L, embryonic fibroblast

中塚 光史 名大, 理, 動物

①マウステラトーマの分化

②マウステラトーマ, マウス (129sv)

玉手 英利 東北大, 理, 生物

①孵化酵素の調節機構

②バフンウニ

P. A. ツオニス 名大, 理, 分子生物

①発生遺伝学, 色素細胞生物学

②ハツカネズミ (*Mus musculus*)

北嶋 隆 都立大, 理, 生物

①再生類の脚再生におよぼす発ガン物質の影響

②日本産アカハライモリ (*Triturus pyrrhogaster*)

増田 明德 川越市六軒町 6-5-4

①ウニ胚の骨片形成

②バフンウニ (*Hemicentrotus pulcherrimus*)

沢田 康次 東北大, 電通研

①実験動物生殖生理

②実験動物

江藤 一洋 東京医歯大, 歯学

①進化と形態形成の熱力学

②未定

安藤 裕子 熊本大, 医・第3解剖

①顎顔面の発生と異常

②ラット, マウス, ヒト

井上 泰江 同志社大, 工学

①始原生殖細胞の移動

②ニワトリ

岩田 光 湧永薬品, 中央研究所

①Chick embryo における心臓原基細胞の分化

②白色レグホン

①H-Y抗原と性の分化 (特に初期胚における

羽 地 達 次 阪大, 微研

高 木 新 京大, 理, 生物物理

小 合 宗 一 京大, 理, 生物物理

天 野 重 豊 金沢大, ガン研

杉 野 泰 生 愛媛大, 理, 生

堀 井 善一郎 顎発生生長研

森 山 英 明 熊本工大, 応微工

上 村 典 子 近畿大, 医・第1解剖

末 光 隆 志 埼玉大, 理, 生体制御

石 田 克 美 帝京大, 医, 泌尿器

<退会会員>

大 川 真 澄 横浜市戸塚区俣野町1403

栗 原 義 昭 東農大, 育種研

武 藤 義 信 愛知教大

保 田 友 義 国立予研

田 伏 洋 南河内郡狭山町西山台

鈴 木 旺 名大, 理, 化学

<住所変更>

新

阿久津 四 郎 横浜市中区打越23 長岡方

旧

茅ヶ崎市赤羽根376

H-Y抗原の表現について

②ラット

①マウス精原細胞の分化

②マウス (L57BL系)

①神経性網膜細胞の in vitro培養での分化転換

②ニワトリ

①細胞分化, 細胞接着の研究

②マウステラトーマ

①補体系の遺伝, マウステラトーマの分化

②マウス

①ホヤの卵形成

②マボヤ (*Halocynthia roretzi*)

単体ボヤ (*Ascidia gemmata*)

①Genetics of Daphnia

②Daphnia

①DNA複製, 細胞融合

②*Penicillium uritica*, *Bacillus subtilis*

①始原生殖細胞の形成過程

②アフリカツメガエル (*Xenopus laevis*)

①ウニの受精及び発生

②ムラサキウニ, アカウニ, バフンウニ

①無脊椎動物初期発生に対する環状リン酸化合物の効果

②ウニ, ヒトデ

阿部 武丸 三菱化成, 安科研
 芋生 紘志 宮崎大, 教育
 新池 保 枚方市牧野本町2-9-34
 田沢 栄五郎 横浜市金沢区瀬戸22-2
 三橋 淳 農林研, 昆虫 (茨城県筑波郡谷
 田部町観音台3-1-1)

池上 晋 広島大, 生物生産, 応生化
 角谷 まゆみ 練馬区南大泉町852-12
 寺門 潔 埼玉大, 理, 生体制御
 有馬 四郎 神戸市須磨区大手町5-3-12
 佐方 功幸 癌研, ウイルス腫瘍
 山崎 正博 東北歯大, 解剖
 能登 民人 鹿児島大, 歯学
 池西 厚之 大阪市大, 理, 生物
 竹内 拓司 東北大, 教養, 生物
 唐沢 健一郎 名古屋保衛大, 医, 第1生理
 粕谷 博之 仙台市桜ヶ丘5-16-6
 高橋 和秀 三菱生命研, 発生
 佐々木 直井 西南学院大, 教養
 星野 善一郎 盛岡市西松園4-6-6
 志田 寿人 山梨医大, 生物
 井出 宏之 東北大, 理, 生物
 山道 祥郎 徳島大, 歯学, 口腔解剖
 川村 和夫 高知大, 理, 生物

三菱化成, 生命研
 宮崎大, 教育, 生物
 大阪歯科大, 生物
 横浜市大, 文理, 生物

東京都地区西ヶ原
 東大, 農, 農化
 上智大, 生命研
 埼玉大, 理工, 生物
 奈良女子大, 理, 動物
 九大, 理, 生物
 山形大, 医, 第1解剖
 鹿児島大, 医, 解剖
 岐阜歯科大, 生物
 東北大, 理, 生物
 名大, 理, 化学
 仙台市西多賀1-6-51
 都立大, 理, 生物
 九大, 理, 生物
 岩手大, 教育, 生物
 東北大, 医, 第3解剖
 名大, 理, 生物
 筑波大, 生物科学系
 筑波大, 臨海実

<改姓及び住所変更>

平 良 珠美子 東大, 医科研, 免疫

福田珠美子 東大, 理, 動物

賛助会員

株式会社 小澤製作所豊田営業所

〒 471 豊 田 市 広 久 町 5-27-4

賛助会員

株式会社 栄屋理化岡崎営業所

〒 444 岡 崎 市 大 西 町 字 南 ケ 原 12-219

賛助会員

ア 口 力 株 式 会 社

〒 181 東 京 都 三 鷹 市 牟 礼 6 丁 目 22 番 1 号

賛助会員

和 研 薬 株 式 会 社

京 都 市 左 京 区 北 白 川 西 伊 織 町 2 5
電 話 京 都 (075) 721-0491 (代)

賛助会員

日 製 産 業 株 式 会 社

〒 453 名 古 屋 市 中 村 区 名 駅 4 丁 目 6 - 18
(名 古 屋 ビ ル 内)

賛助会員

三菱化成生命科学研究所

〒 194 東 京 都 町 田 市 南 大 谷 11 号

SIGMA
PRICE LIST
APRIL 1977

**BIOCHEMICAL AND
ORGANIC COMPOUNDS**

for Research
and **DIAGNOSTIC
CLINICAL REAGENTS**

**IT'S
EASY TO
ORDER
from
SIGMA**



Telephone COLLECT
(Charges Reversed)
from Anywhere in the World
8 A.M. to 7 P.M. Monday thru Friday
8 A.M. to 1 P.M. Saturdays, Sunday and Holidays
314-771-5750

TO PLACE AN ORDER
Tell your operator that you want to place a collect call "to anyone" at
Since this is our Order Department, you will receive our tests a bit if you don't ask for the "Order Department", to any certain individuals. However, it is a good idea to get the name of the person you talk to to ease a problem develops later.

TO CALL OUR CUSTOMER SERVICE DEPT. 314-771-5765
To discuss a Shipping or Technical problem, or for any reason, please call
Monday thru Friday
If you have any trouble getting really excellent service at the above numbers, please phone me (Don Strick) personally. Person-to-Person (collect) at 314-993-6411

SIGMA

シグマ製品がブーンと お求めやすくなりました！

日本特殊薬品では、アメリカ・シグマ社と代理店
契約を結び、シグマ社最新カタログの全製品を、
下記の要領で簡単にお求めいただけます。

- シグマ社の製品一切は、ご使用者への直結販売にかぎります。
- 遠隔地への送品には、荷造り・送料を実費申し受けます。少量の場合には、代金引換えにてお願いすることがあります。
- 汎用品はできるだけ常蔵していますが、品切れ、その他の場合は約1カ月のうちに取りよめます。(船便のときは約2カ月後)

お問い合わせは下記へ

《シグマ社受権代理店》

日本特殊薬品株式会社

大阪市西区京町堀1丁目8番22号(〒550) ☎06(448)2261(代表)
私書箱番号(〒530-91) 大阪中央局第755号

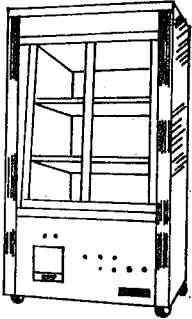
Call me anytime... day or night, Sundays or Holidays. I am usually (but not always) available. If you don't reach me, please try again later.

TELETYPE — TWX Telex
We have a TWX machine and our number is **910-761-0593**
If you have a TWX machine you may dial us directly.
If you have a Telex machine, contact your teletype representative for instructions. Don't try to dial our TWX number on a regular telephone — it won't work. You must have a teletype machine.
To ask us "collect" or either a TWX or Telex machine, contact your teletype representative for instructions.
Although we accept "collect" teletype messages, they are allowed by only a few countries. Check with your teletype representative for details. If you cannot send your message "collect" we will be happy to reimburse the cost if you send it a day or the message and the charges.
Our answer back code is "SIG-OK Collect". Although you may send messages to us at night, we cannot reply immediately. Our machine is unattended Monday through Friday between 1700 and 1800, and all day Saturday and Sunday.
PLEASE HELP US TO HELP YOU
If at all possible, don't send us a CONFIRMING PURCHASE ORDER at all. It serves no useful purpose after your phone order is shipped, and might result in a Duplicate Shipment which is NOT refundable. We do not send returned reagents.
If a purchase order MUST be sent anyway, be sure it is clearly marked
"CONFIRMATION DO NOT DUPLICATE"

SIGMA
CHEMICAL COMPANY

NK式生物研究用機器

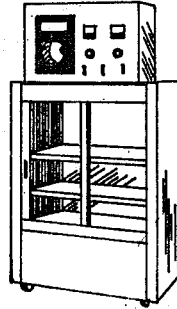
NK式電気低温恒温器 (送風循環型) 高精度普及型



型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温 度 範 囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	26万円	30.5万円	32万円

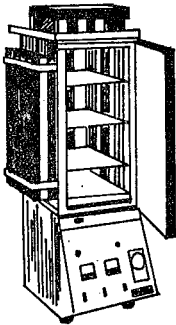
※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器 (送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます！



型式	LP-150 -3P	LP-200 -3P	LP-300 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温 度 範 囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	49.8万円	53.5万円	60万円

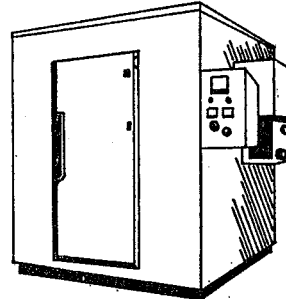
NK式人工気象器 植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派！



型式	LH-100 -RD型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温 度 範 囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価 格	温度のみ 47万円	温・湿 度付 73万円	プログラ ム付 66万円

※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽 組立、移設、増設が思いのまま！

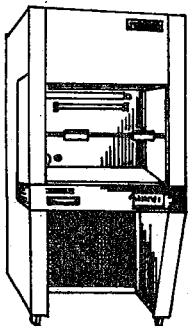


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪 1,190,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪 1,290,000円
より各種

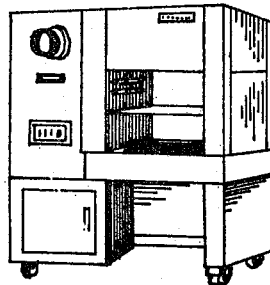
※詳細はプレハブシリー
ズカタログをご請求下
さい。

NK式クリーンベンチ (垂直層流型)



NKB-VS-850
¥780,000
NKB-VS-1300
¥880,000

NK式クリーンベンチ (垂直層流両面型) 無菌作業の能率アップに！



NKB-VW-850
¥1,200,000
NKB-VW-1300
¥1,500,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本 社 〒550 大阪市西区江戸堀1丁目19番24号
東京営業所 〒183 東京都府中市緑町7053-4
工 場 〒583 羽曳野市駒ヶ谷5番地47号

電話 大阪 06(443)0712代
電話 府中 0423(65)3245代
電話 羽曳野0729(58)1919代